

○健康寿命延伸のための「介護予防」ワーキンググループ

1. 概要

- ・介護予防の取り組みが効果的に実践できているかを多角的に評価するため、令和5年度にワーキングを立ち上げた。
- ・ワーキングにおいて、各委員の専門的見地による具体的な検討を行い、地域の特性に応じた取り組みの実践に反映し、市民にフィードバックする。

2. ワーキンググループ委員

別紙1

3. 令和5年度 実施報告

(1) 開催日時

令和6年2月27日

(2) 内容

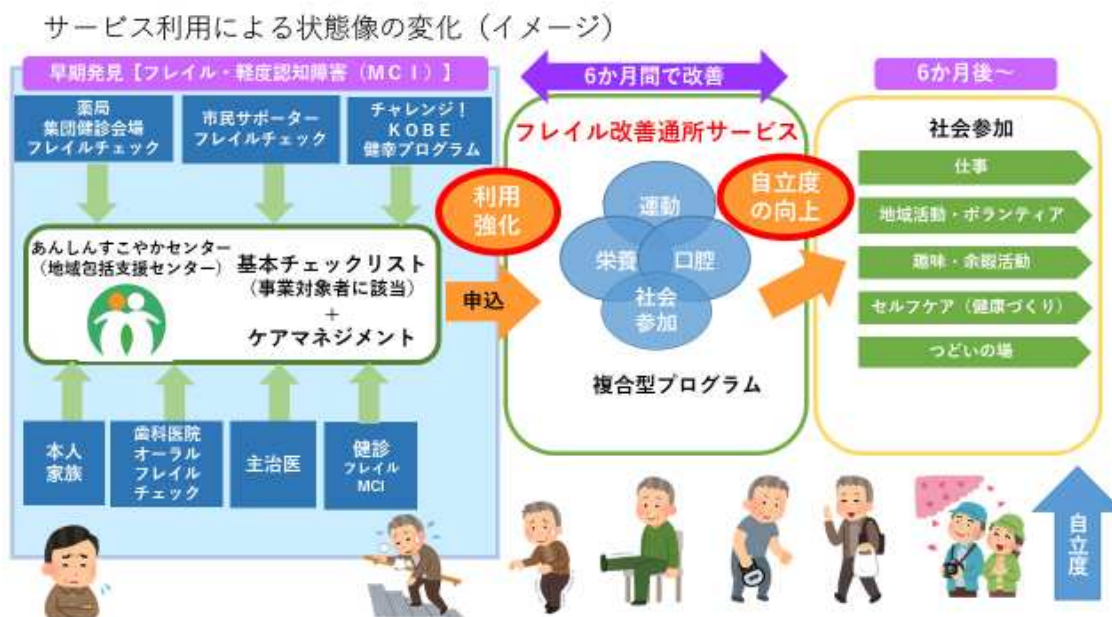
1) フレイル改善通所サービスの拡充について

【事業概要】

- ・令和5年度は、定員数（定員20名）を超える会場や待機者が出る会場が生じていたほか、市内14か所（各区1～2か所）での開催となっていたことから生活圏域から離れた方は参加しづらい状況にあった。そのため、希望者がより参加しやすくなるよう実施場所数を増やしていく必要がある。
- ・フレイル状態の方や、薬局・集団健診会場等で実施している国民健康保険のフレイルチェック事業で「リスクあり」と判定を受けた方等に積極的にフレイル改善通所サービスに参加勧奨できるよう、実施場所を市内14か所から39か所まで拡大し、複合的な介護予防プログラムの利用拡大を図る。
- ・あわせて、令和5年度までは、最長12か月の利用が可能となっていたが、実施箇所数の拡大に伴い、より多くの方が利用できるよう利用期間を最長6か月に短縮し、利用機会の拡大を図る。
- ・フレイル対策事業の介護給付費削減等の効果検証を行い、今後の介護予防事業や、市民への介護予防啓等に活かし、戦略的な介護予防施策に取り組む。

実施主体：神戸市（委託）

実施場所：市内39か所



2) 健康寿命の考え方について

第9期介護保険事業計画では、健康寿命延伸の数値目標を示していないが、引き続き健康寿命の推移を見ていく。今後も「日常生活に制限のない期間の平均」を健康寿命として取り扱い、補完的指標として「日常生活動作が自立している期間の平均」を活用する。

表1) 厚生労働省が主導する算定方法による健康寿命

健康寿命の種類	基礎データ	データの特 性	備考
①日常生活に制限のない期間の平均	国民生活基礎調査 ※あなたは現在、健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか	自己申告 (主観的)	神戸市 厚生労働省
②自分が健康であると自覚している期間の平均	国民生活基礎調査 ※あなたの現在の健康状態はいかがですか	自己申告 (主観的)	
③日常生活動作が自立している期間の平均	介護保険事業状況報告 ※介護保険において要介護2以上の認定を受けていない人を対象	客観的	兵庫県

3) フレイルチェック事業について

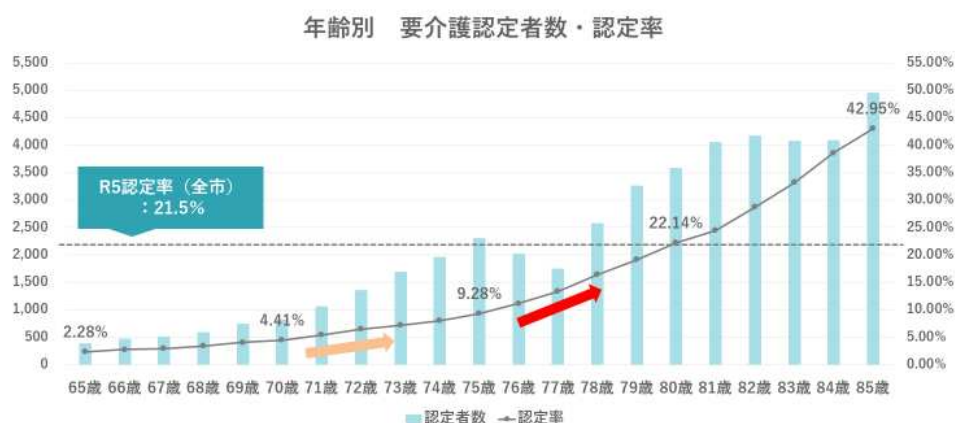
- ・神戸市のフレイルチェック事業の対象者は、65歳・70歳の国保加入者や後期高齢者75歳など様々であり、市民全体を対象にした事業ではないという課題があ

る。そのため、一定の年齢でフレイルチェック事業を実施するなど、効果的な事業のあり方を今後検討する。

- ・要介護認定率は年齢につれて上昇し、特に70代後半に上昇幅が大きい。要介護認定率が上昇する75歳頃までにフレイルのリスクを発見し、意識変容や行動変容につなげていくのが良いと考えている。

フレイルチェック事業について

- 介護認定率は年齢につれて上昇するが、特に70代後半以降になると上昇幅が大きくなる
- 介護認定率が大きく上昇する75歳頃までに、フレイルのリスクを発見し、適切に予防に取り組む必要があるのではないか



出典：神戸市 年齢別認定率 (令和5年3月時点)

4. 令和6年度開催 (予定)

(1) 開催時期

令和7年1月頃

(2) 検討課題 (案)

フレイルチェック事業の見直しについて

健康寿命延伸のための「介護予防」ワーキンググループ

委員名簿

座長	近藤 克則	千葉大学 予防医学センター教授
	大串 幹	兵庫県立リハビリテーション中央病院 院長
	肱黒 泰志	神戸市医師会
	三代 知史	神戸市歯科医師会 副会長
	越後 洋一	神戸市薬剤師会 副会長
	西口 久代	兵庫県看護協会 専務理事
	加藤 慶子	神戸地域包括支援センター会 (あんしんすこやかセンター)
	河内 清美	兵庫県栄養士会 常務理事
	栗原 知子	兵庫県歯科衛生士会 副会長
	山本 克己	神戸市リハ職種地域支援協議会 代表幹事